

NHK

ことばの ハンドブック

NHK 放送文化研究所編

日本放送出版協会

NHK **ことばの** **ハンドブック**

NHK 放送文化研究所編

日本放送出版協会

NHKことばのハンドブック

1992 年 3 月 25 日 第1刷発行

1993 年 2 月 10 日 第2刷発行

編者 NHK 放送文化研究所

〒105 東京都港区愛宕2-1-1

電話 (03) 5400-6800(代表)

発行 日本放送出版協会

〒150 東京都渋谷区宇田川町41-1

電話 (03) 3464-7311(代表)

振替 東京 1-49701

印刷 大日本印刷

製本 芙蓉紙工

Printed in Japan

ISBN 4-14-011063-5 C2581

製本には十分注意しておりますが、万一落丁本、乱丁本がありましたらお取り替えいたします。

定価はカバーに表示してあります。

はじめに

平成4年度から、「話しことば」が、小学校の授業に取り入れられることになりました。これは、画期的なことです。日本の学校教育は、明治以来、「読み・書き・そろばん」を基本としてきました。「読み・書き」と「話す・聞く」が一体となって、豊かな言語表現が成り立っていることは、論を待ちません。

NHKは、大正14年(1925)の放送開始以来、「放送のことば」の検討を続けてきました。放送でことばを使うときに、どう発音すればよいか、どう書き表せばよいか、どう表現したら、わかりやすく美しく伝えることができるかを考え続けてきました。その結果、毎日、NHKの電波に乗って伝えられることばは、日常の話しことばの一つの規範として、大きな信頼を寄せられるようになりました。

NHKには、60年近くの歴史をもつ「放送用語委員会」があります。ここでは、放送で使うことばについて検討し、放送ではどのようにしたらよいか、その目安を決めてきました。

『NHKことばのハンドブック』は、NHKのアナウンサーや放送に携わるスタッフがことばについて迷ったとき、よりどころとしてきたものをまとめたものです。放送関係者ばかりではなく、ことばに深い関心をもち、ことばのすぐれた使い手になりたいと願う人びとに、幅広く利用していただけるものと思います。

ことばは生きています。流行語や外来語が、わたしたちの話しことばをより生き生きしたものにすることがあります。新しいことばや表現を効果的に取り入れてことばをより生き生きしたものにしていくためには、一人一人が「ことば」に対して敏感になればなりません。また、ことばづかいには「ゆれ」があります。この「ゆれ」のあることばについては、全国に伝えられる放送のことばとしてふさわしいかどうかを基準に、放送では使わないほうがよいことを示したものもあります。

この本は、昭和62年に『NHK放送のことばハンドブック』として刊行以来、好評を得てきました。その後5年を経過し、時流に合わなくなったことばも出てきましたので、この度全面的に見直し、改訂を図ることになりました。

今回の改訂では、まず、書名を『NHKことばのハンドブック』と変更しました。内容の改訂は、放送用語委員会の審議結果の変更や、新規の項目の追加が中心ですが、新たに、放送現場でしばしば問題となり、一般の人にも関心が高いことばを選んで掲載しました。

また、平成3年6月に「外来語の表記」が内閣告示されたのにもない、NHKでも、「外国語・外来語のカナ表記」について再検討し、新しい「基本方針と原則」を取り決めました。さらに、世界情勢の変動にともない、国名などがずいぶん変わりました。そこで、外国語・外来語、外国の地名・人名の「用例集」を大幅に改訂しました。

一方、放送のことばの基本や視聴者からの問い合わせの多いものについて、簡単に解説する「ことばQ&A」という章を設けました。

NHKでは、このほかに、発音・アクセントについては、『日本語発音アクセント辞典』、表記については、『新用字用語辞典』を刊行していますので、本書とともに、ご利用いただければ幸いです。

なお、編集に際してご協力をいただいた放送用語委員の方々と、特に具体的なご指摘やご助言をくださった柴田武氏、宮沢清治氏に厚くお礼を申し上げます。

平成4年3月

NHK放送文化研究所

所長 小林昭美

目 次

はじめに	1
この本の使い方	5
1 用語集	7
2 外国語・外来語のカナ表記—基本方針と原則 ...	201
I. 基本方針	203
II. 原則	203
III. 細則	204
3 外国語・外来語のカナ表記—用例集	215
4 外国語略語集	283
5 数字の発音	293
I. 数字の発音の基準	295
II. 数字単独の場合の発音	295
III. 数字に名詞が付く場合の発音	299
IV. 数字の発音・用例集	303
6 助数詞の使い方	317
I. 使い方の基準	319
II. 助数詞・用例集	322

7 ことばQ&A329

- | | |
|----------------|---------------------|
| 放送のことばとは 331 | アクセントの平板化 350 |
| 標準語と共通語 332 | 地名の地元アクセント 351 |
| NHK放送用語委員会 333 | 漢字で書く語 352 |
| 放送と敬語 334 | 送りがなを省くことば 353 |
| 放送と外来語 335 | 「大」の付く語の読み 354 |
| 報道と人権 336 | 「世論」の読み 356 |
| 放送文章の基本 337 | 「見れる・出れる」という言い方 357 |
| ニュースの常とう表現 338 | 「あげる」と「やる」 358 |
| 重複表現 339 | 「お」の付くことば 359 |
| むずかしい漢語表現 340 | 混交表現 360 |
| 専門用語 341 | サ変動詞「○○+する」 361 |
| ことばの省略 342 | 外来語の表記のゆれ 362 |
| 商標名 343 | 日本人の好きなことば 363 |
| ドラマと方言 344 | ことわざの意味のゆれ 364 |
| 〔エイ、ケイ、セイ〕 | 女性のことば 365 |
| の発音 345 | 若者のことば 366 |
| 〔シ・シュ〕と | 敬語はなくなるか 367 |
| 〔ジ・ジュ〕の発音 346 | 外来語はどこまで増えるのか 368 |
| 「10本」の発音 347 | 日本語の国際化と日本語観 369 |
| 鼻濁音 348 | 日本語の現状 370 |
| 外来語のアクセント 349 | |

この本の使い方

この本には、放送で使われることばのうち、発音・表記・意味・使い分けなど、使い方で問題となるものを収めた。

第1章の「用語集」には、主として次のような語を50音順に配列して掲載した。

- (1) 読みにゆれのある語句のうち放送での読み方が決められているもの、また特に読み方の間違いやすいもの
- (2) 同音語などのことばの書き分けに類するものや送りがなの付け方など、表記に問題のあるもの
- (3) ことばの意味や解説、放送でのことばの選び方や表現のしかた、意味の使い分けなど

第2章には「外国語・外来語のカナ表記」の「基本方針と原則」を示した。第3章は「用例集」とし、外国語・外来語、外国の地名・人名を一括して50音順に配列した。第4章には、外国語の略語の主なものをまとめた。

第5章は「数字の発音」、第6章は「助数詞の使い方」について、基準と用例集に分けて示した。

第7章の「ことばQ&A」では、放送のことばの基本に関する項目について、質問に答える形式で簡単な解説をした。

第1章「用語集」の使い方

1. 見出し（太字の部分）

- (1) 各項目の見出しは、決められた表記（2. 参照）にしたがって、漢字・ひらがな・カタカナで示した。

〈例〉可能性

さるすべり [△百 △日 △紅]

ジェットfoil

- (2) 使い分けを示す項目は、ことばを並べて見出しとし

た。また、包括的な内容を示す項目では、それを見出しとした。

〈例〉 海拔・標高

天気予報の表現

(3) 見出しは、かなづかいによって配列した。

〈例〉

(配列の順序)	(かなづかい)	(発音)
横断・縦断	おうだん	オーダン
黄土	おうど	オード
大鼓	おおつづみ	オーツズミ

2. 表記

この本の中のことは、原則として『NHK編新用字用語辞典』(昭56)によって書き表した。

なお、発音表記の〔カ°, キ°, ク°, ケ°, コ°〕は、鼻濁音を示す。

(鼻濁音については、「ことばQ&A」(p.348) 参照)

1 用語集

〈記号の説明〉

[] 中の漢字：放送では使わないほうがよい漢字を示す。

(×印—常用漢字表にない漢字，△印—常用漢字表にない音訓，無印—当て字など)

[] 中のカタカナ：放送での発音を示す。現代かなづかいによる表記とは必ずしも一致しない。

読み：放送での発音や読み方に問題がある項目であることを示す。この印の付いた項目では、発音を示すカタカナに、[] を付けていない。

○… ○…：放送では、どちらの発音を使ってもよいことを示す。

①… ②…：放送では、①を付けた発音を第1とし、②を付けた発音を第2とすることを示す。

×：放送では、原則として使わないことば、または使わない発音であることを示す。

☞：右側は、参照すべき関連項目を示す。

あ

秋田犬 読み ①アキタイヌ ②アキタケン

秋の夜長

秋分の日のあるところから11月の初めごろまでに使う。地域差があるが、9月上旬に使うのは早すぎる。ただ、一時期に集中して使うおそれがあるので注意する。

秋めく

「日ごとに秋めいてきました」と表現してもよい。

「めく」は、「～のような状態になる」「らしくなる」の意味を表す。俳句の季語には、春・夏・秋・冬すべてに「めく」がついた形がある。

明け

〈例〉寒の明け、土用の明け、梅雨明け

「お盆」「彼岸」の場合は、「明け」は使わない。

☞「入り・明け」

あげる・やる ☞ ことば Q&A「あげるとやる」(p. 358)

アクセント ☞ ことば Q&A「外来語のアクセント」(p. 349)

「アクセントの平板化」(p. 350), 「地名の地元アクセント」(p. 351)

足がある

野球などで、「このランナーは足があります」のように、足が速いという意味では、使ってもよい。

足が奪われる

交通ストなどでの「足が奪われる」という表現は、「(〇〇人に)影響が出る」などの客観的な表現に言いかえる。「市民の足となっているバス」というような言い方はかまわない。

足切り

大学入試に関して用いられる「足切り」という表現は、語感が強

すぎるので、アナウンス・表記とも、「2段階選抜」「予備選抜」などと言いかえる。

足手まとい **読み** ○アシデマトイ ○アシテマトイ

あす・あした・みようにち

ドラマなどでは「あした」ということばも使うが、ニュース・天気予報では、簡潔な「あす」を使う。

小豆 **読み**

アズキ……………一般的な場合

ショーズ……………商品市場での取り引きに限って使う。

当て逃げ・ひき逃げ

「当て逃げ」は使ってよい。ただし、アナウンスでは、「駐車中の車にぶつかって、そのまま逃げました」などと、できるだけ具体的に表現する。

「当て逃げ」とは、車の場合、相手の車や家屋にぶつけて損害を与え、そのまま逃げることで、車が人に衝突してそのまま逃げた場合は、「ひき逃げ」を使う。 □「ひき逃げ」

後腐れ **読み** ○アトクサレ ○アトグサレ

あなたにとって○○とは？

インタビューでよく使われる言い方で、パタン化している。相手に応じて、具体的なことばでインタビューをしたほうがよい。

甘酒 **読み** ○アマザケ ×アマサケ

余り米・余剰米

余り米……………政府が買い上げる米の限度量の枠以上に出来た米で、自主流通米に準じたルートで業者に流れるもの。ただし、食糧庁では「予約限度超過米」と言い、「余り米」とは言っていないし、この言い方には農家の抵抗も強い。また、「余剰米」と混同するおそれもあるので、「予約限度超過米、つまり政府の買い入れ予定量以上に収穫された米」などと言うほうがよい。

読み ○アマリゴメ ×アマリマイ

余剰米……生産された米から消費された米を引いたもの。つまり消費されずに、倉庫に眠っている米。

アメダス AMeDAS

アメダスとは、「地域気象観測システム」の英語名 Automated Meteorological Data Acquisition System の頭文字を並べた略語で、気象庁が局地的な集中豪雨などを監視するために開発した。

全国の約1300地点の無人観測所から降水量、気温などの観測データを自動的に集めるシステムである。

アメダスの観測データによる雨の分布画面は、昭和58年4月からNHK テレビの天気予報やニュースに登場した。続いて気温は、翌昭和59年からで、現在では、日照、風向きなどの分布もテレビ画面に登場している。

雨もよう

雨が今にも降り出しそうなとき、まだ雨が降っていないときに使うのが本来の用法である。最近では、わずかな雨が降ったりやんだりしているときに、このことばを使う傾向があるが、本来の用法を心がける。

あいまいな表現なので、天気予報では使わない。

荒らげる・荒げる **読み** ①アララゲル ②アラゲル

ある・降る ㊦「にわか雨・にわか雪」

荒れもよう・大荒れ

「荒れもよう」は、意味があいまいなので天気予報では使わない。

「荒れた天気」は強風に雨または雪などを伴った状態を言う。

「大荒れ」などのことばのあとには、具体的に、風や雨・雪の量的な予想を付けたほうがよい。

〈例〉大荒れの天気になるでしょう。風や雨が強くなり、雨はしだいに雪に変わりますので警戒してください。

あわやホームラン

〈例〉あわやホームラン、あわやホールインワン

「あわや」とは、普通、「危機一髪というところで、ことなきをえた」ことを言う言い方で、助かったほうの立場からみた表現である。

最近は例文のように、中立的な意味合いで使われることもあるようだが、誤解を招くので、放送では「もう少しで」「あと〇〇メートル（センチ）で」などとする。

アンケート・アンケート調査

原語の「アンケート (enquête)」ということば自体に「調査」の意味が含まれているが、放送では、「アンケート」「アンケート調査」のどちらを使ってもよい。ただし、「～調査」は重複表現だという意見もあるので注意する。

安息日〔アンソクビ〕

キリスト教関係者の間では〔～ニチ〕〔～ジツ〕が使われているが、一般向けの放送では〔アンソクビ〕とする。

漢字2字のことばに「日」がつく名詞は〔～ビ〕と発音するのが普通である。

〈例〉記念日 給料日 参観日 誕生日 定休日 旅行日

安楽死・尊厳死

主として次のように使い分けられる。

安楽死……最後の肉体的苦痛から解き放つために、投薬などによって、死に至らしめること。また、その死。

尊厳死……生命維持装置などでかろうじて生命を保っている人や植物状態の人の生命維持装置を取り外すこと。また、その死。

はっきりと区別ができない場合もあり、法的な問題もあるので、関係者の心情を考慮したうえで、慎重に使う。

い

家〔イエ・ウチ〕

原則として、〔イエ〕は建物を指す場合。家庭を指す場合は〔ウチ〕。(「家」(うち)は表外音訓)

家並み **読み** ○イエナミ ○ヤナミ家主 **読み** ○イエヌシ ○ヤヌシ

生きざま

語感が悪く、抵抗を感じる人もいるので、乱用しない。

場面に応じて、「生き方、一生、生涯、半生、生活ぶり」などのことばを使って、類型的な表現にならないように工夫する。

息づく

「伝統が豊かに息づいている」のように、「生き生きと存在する」の意味で使ってもよい。

(注) もとは、「苦しそうに呼吸する」の意。

「池」の付く語 **読み**

慣用に従って次のように読み分ける。

(1) 〔〜イケ〕と読むもの

用水池 養殖池 養魚池

(2) 〔〜チ〕と読むもの

貯水池 沈殿池 遊水池 配水池

「沈殿池」など、一般にあまりなじみのない語の場合には、わかりやすく説明を付けるような配慮が必要である。

〈例〉水中の浮遊物を沈殿させ、水をきれいにするための水槽を
沈殿池と言いますが…。

いけ魚〔ウオ〕〔△活〕 ⇨ 「活魚〔カツギョ〕」

生け造り・生き造り〔△活〕 **読み** ①イケズクリ ②イキズクリ

遺言〔イゴン〕 ⇨ 「遺言〔ユイゴン〕」

いざよい〔△十△六△夜〕 **読み** ①イザヨイ ②イサヨイ

意思・意志

意思……（一般・法律用語。考え）～表示 ～の疎通 個人の～

意志……（心理学用語。したいと思う気持）～薄弱 ～が強い

移住（者）・移民

原則として「移住」「移住者」とする。「移民50年祭」など、固有の名称以外では、「移民」は使わない。

異常・異状

異常……（正常でない アブノーマル）～な発達 ～な執念

異状……（ふだんの状態と違った様子）～なし 体の～を訴える

イスラム教

原則として「イスラム教」とし、「回教」は使わない。

「イスラム教」が複合名詞に含まれる場合などには、「教」が付かないこともある。〈例〉イスラム（教）寺院

「イスラム教」と呼ぶことを教徒が強く望んでいることと、外交上の配慮からも、「回教」は使わないほうがよい。

依存 読み ①イソン ②イゾン 存「存」の付く語**遺体・死体**

「死体」ということばは、即物的で語感が強いので、一般的には「遺体」を使うほうがよい。

特に、「行方不明だった〇〇さんの遺体が発見されました」というような場合は、搜索していて発見されたものであり、身元がわかっている場合なので、「遺体」を使う。

ただし、身元のわからない変死体の場合など、生死を端的に伝達するために「死体」を使うこともある。

〈例〉死体で発見されました。

いたまる [[×]炒]（料理）

「〇〇がいたまったら」という言い方は、一般的ではないので、「いためたら」「いため終わったら」「できあがったら」「火が通ったら」などと言いかえる。